

令和7年度三木市社会福祉審議会 第1回高齢者福祉計画・介護保険事業計画
策定検討部会 会議録

◇日時

令和7年11月14日（金） 13:30～15:00

◇場所

三木市役所 4階 特別会議室

◇次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 部会長及び副部会長の選出
- 5 協議事項
 - （1）高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
 - （2）三木市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（案）について
- 6 その他
- 7 閉会

◇資料

- ・ 次第
- ・ 検討部会委員名簿
- ・ 資料1 高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定について
- ・ 三木市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査票案

◇出席者

【委員】

出席11人、欠席7人（圓尾委員、河原委員、藤木委員、高馬委員、加藤委員、西尾委員、井上委員）

【事務局】

健康福祉部：山城部長

介護保険課：春川課長、中下係長、藤枝係長

高齢福祉課：坂本課長、松本副課長兼地域包括支援センター所長、井上課長補佐、深谷係長、
川上係長、渋谷主査

◇議事要旨

1 開会

事務局

定刻になりましたので、ただいまから、三木市社会福祉審議会「第1回三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会」を開催いたします。委員の皆様におかれましては、公私ご多忙な中、ご出席いただきましてありがとうございます。議事録作成にあたり、会議を録音しますのでご了承ください。ご発言いただく際には、前にあるマイクは収音機になっておりますので、マイクの前でお話してください。

開会にあたりまして、山城健康福祉部長から、ご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

健康福祉部長

本日はお忙しい中、三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会にご出席いただきありがとうございます。また平素は高齢者福祉をはじめ、地域福祉の推進にご理解・ご協力いただいておりますことを御礼申し上げます。

本日は計画策定について、介護保険運営協議会の委員の皆様と社会福祉審議会の委員の皆様には重ねてのお願いになり、重責をお願いすることになりますが、よろしくお願いいたします。

事務局

本部会には、社会福祉審議会の8名の委員に加え特別委員として介護保険事業運営協議会委員の中から、各種団体の団体と公募委員の方10名に就任をお願いし、ご承諾をいただきました。特別委員の皆様には本日付で社会福祉審議会特別委員を委嘱させていただき、委嘱状をお手元に配付させていただき、交付に代えさせていただきます。ご了承ください。

3 自己紹介

事務局

それでは、本年度初めての会議になりますので、委員の皆様には簡単に自己紹介をお願いします。

【委員自己紹介】

事務局

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

【事務局自己紹介】

事務局

本検討部会は18名の委員で構成されており、圓尾委員、河原委員、藤木委員、高馬委員、加藤委員、西尾委員、井上委員から欠席のご連絡をいただいております。11名の出席をいただいておりますので、半数以上の出席になりますので、条例第7条第2項の規定により、本日の会議は成立しておりますことを報告いたします。

続いて本日の資料の確認をさせていただきます。

【資料確認】

4 部会長及び副部会長の選出

事務局

続きまして、この検討部会の部会長、副部会長の選出に入らせていただきます。慣例によりまして、事務局の方から、部会長に、三木市医師会理事の池田委員を、副部会長に、三木市社会福祉協議会会長の植田委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【異議なし】

事務局

ありがとうございます。それでは、池田委員、植田委員におかれましては、前方の席へのご移動をお願いします。

それでは、池田部会長、一言ご挨拶をお願いいたします。

部会長

部会長を務めさせていただきます。皆様には第1回高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の部会にお越しいただきありがとうございます。皆様の意見を滞りなくいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

5 協議事項

(1) 高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

事務局

それでは、ただ今から協議事項に入らせていただきます。議事進行につきましては、部会長にお願いすることになっております。よろしくお願いいたします。

部会長

それでは協議事項1、高齢者福祉計画、介護保険事業計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料に基づき説明】

部会長

ただいま事務局から計画策定について説明がありました。ご意見などあればお願いします。よろしいでしょうか。計画についてはスケジュールに沿って粛々と進めていくことになると思いますので、それでは次の議題に移ります。

(2) 三木市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（案）について

事務局

【資料に基づき説明】

部会長

ただいま事務局から、ニーズ調査の概要と内容について説明がありました。ご検討をいただきたいと思います。まず今回概要として、新たに就労の状況等の質問が加わったり、健康や助け合い、認知症に関する項目が調査に加わっています。今回のニーズ調査については、三木市内にお住いの65歳以上の方、要支援2までの判定を受けている方が対象です。ニーズ調査についてのご意見をいただきたいと思います。国から指定されている項目は変更しがたいということですので、三木市独自の説明された項目についてご意見いただければと思います。

委員

とても気になるのですが、内容はさておき、番号や網掛けのミスがあるということで、この辺りは委員に送るまでもう少し見ておいていただきたかったと思います。5ページで網掛け4が抜けています。10ですが、同じようにするなら網掛けが必要だと思います。7ページ問5で、4で1、2と答えた方という部分は修正が必要です。9ページの3つ目の2で1と答えた方というのは網掛けが必要です。最後の15ページですが、5の下記の1～6についてとありますが、項目が7つあります。単純なことです、気になってしまってとりあえず申し上げました。

委員

老人会で高齢者の機会や活動についていろいろ考えてやっていますが、今回老人会についての質問を入れてくださっていて、私自身も知りたい項目であるのですが、老人会に参加していますか、しているとこういうことが目的、こういうことがいいから参加する、していない理由としていろいろあるでしょうが、市としてこういうアンケートを取って、どう活かすのかが不安なところがあります。高齢者福祉についての施策に、老人会の存在にかかわってきたりということではないでしょうか。

事務局

老人クラブはなかなか加入が増えない、脱退が多いという現状を把握しています。その中で、老人クラブについてどういう意識があるかを把握する調査として実施しています。これを踏まえてどうするかは計画の中で検討したいと思いますし、老人クラブ連合会とも一緒にどうしていくかを検討したいと思います。今のところアンケートを踏まえてどういう方向性、ということは、まだこれからの検討段階となっています。

委員

今後検討していくというお答えでしたが、どう検討するかという不安は残ります。老人会としては、確かに新しい人が入っていない、若い人が入ってこない、今いる人が高齢化していて、その人たちがなかなか活動しにくくなっていて、施設に入ったり亡くなったり、子どものいる地域に引っ越したりと減ってきています。でもまだまだたくさんの方が老人会の中で活動されています。そういう中で老人会として頑張っていますので、明日また緑が丘の老人会の目的である支えあいについてお話をすることになっていますが、そういう老人会の現状も知ってほしいと思い発言しました。

委員

質問の中で参加している、参加していない、といったことですが、私たちの地域は新興住宅で小さな地域で、老人会、老人クラブがありません。参加したいと思ってもどのように申し込んだらいいかわからないので、選択肢の中で老人クラブが近くにないか、申し込みの仕方がわからないということを加えてもらうことはできないでしょうか。あるところは人がいないと困っていらっしゃると思いますが、一方でそういう方もいらっしゃるのではないかと思います。

事務局

ご意見ありがとうございます。気づきをいただけて助かります。調査項目に加えたいと思います。ありがとうございます。

委員

問3で口に関する質問を作っていただいてありがたいと思います。口は命の入り口といわれ、そこから栄養を取りますし、少しずつ栄養が取りにくくなってくると、全身が弱ってきますので、この辺をしっかりと把握できればと思います。6の歯の本数について、よく勘違いされますが、かぶせてしまうと歯の数ではないということをいわれます。歯の数は根っこの数で数えますので、根っこの数であるということがわかるような言葉があると助かります。8ページでみっきいいきいき体操が紹介されていますが、ここにみっきいにこにこ体操も加えていただければと思います。

事務局

歯の数についてのご指摘ですが、質問と選択肢については国指定のもので、これ自体は変えにくいのですが、注記を加える形でかぶせている歯も1本と数えるのだということがわかるような注記を検討させていただきます。にこにこ体操についても加える方向で検討させていただきたいと思います。

委員

11ページの健康について、7の病院受診や健康診断のところで、かかりつけ医があるかという質問が必要だと思います。また、8の耳の聞こえについて、認知症に関連したりもしますが、目のほうはいいのかと思っています。耳についてはどのように使われるものでしょうか。

事務局

かかりつけ医については、検討したいと思います。耳の聞こえと目のほうですが、耳についてはヒアリングフレイルの観点から入れた質問です。目についてはまた内部で検討したいと思います。

委員

いくつか気になることがあります。老人クラブについては三木市独自ということでもいいことだと思うのですが、参加している人は良いと思う理由というのは良いのですが、参加したくない理由を聞いています。そういう聞き方もあるかと思うのですが、私はどうすれば参加できそうかという前向きな、今後の施策に結びつくような回答が得られる、そういう質問にしたらどうかと思います。例えば、経済的に余裕がないからとありますが、経済的な余裕があれば参加できると

か、役員にならなくても参加できそうとか、参加できない理由が何なのかということも大事ですが、そこを取り除いたら参加率が増えるので、行政としてそこをバックアップしていけばよいということになると思います。私もいろんな活動をする中で、補助金申請の書類を書くのが面倒で、書けなくても、書けば経済的支援が得られるとわかっているのに支援に結びつかない、ではそれを簡単にすれば支援に結びつくので、そのように今後の施策に続くような聞き方にできないかと思っています。それから、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局もあるかと思っています。私はいろんな先生に診てもらっていますが、どの先生が私のかかりつけ医なのかと悩みます。登録など必要なのでしょうか。自分がそう思っていたらいいですね。何が言いたいかといえば、かかりつけ医、かかりつけ歯科医とはこういう人です、ということの説明を入れておくといいのではと思います。高齢の方、自分でも目が見えにくくなっている、支援が必要な人であると思いますので、そういう方に答えていただくための方策を考えておられると思いますが、ケアマネとつながっている方はケアマネと一緒に答えてくださいとか、ご家族と一緒に答えてくださいといったことも気になりましたので、よろしくお願いします。

事務局

ご意見ありがとうございました。老人クラブについては、市としてもどのように施策を進めたらいいか、このアンケートをきっかけに考えていきたいと思っています。どうすれば参加につながるかという、次の施策につながりそうな聞き方については、ほかの市の事例等も見ながら検討したいと思っています。

委員

認知症についてですが、アンケートの対象は65歳以上の方となっていますが、65歳以上で一人で生活していて、たまにこどもが面倒みているといった家庭が私の地区にもありますが、その方が認知症にかかって、まだ初期の段階です。本人は認知症になりかかっていると意識していない、わかっていないということがあり、そういうところにこれが届くと、一人では、アンケートで、私は認知症だとは書かないのではないかと思います。たまに来るこどもが、当然65歳以下の方で、そこにはアンケートは来ないでしょうから、代わりに書いてもらうとか、認知症にかかっているならアンケートに書けるのかなと思います。

事務局

基本的には、宛名になっている高齢者の方ご自身に答えていただくものになっています。ですので、認知症になっていますかという質問に関しては、国の指定の質問で変えられない部分ですが、ご本人が認知症でないと思っていらっしゃったら、仮に周りから見たら支援が必要になっても、認知症ではないというほうに丸をして回答していただいても構わないという調査になります。毎年同じようにたずねることで、地域の状況の変化などはみていくことができますし、このアンケートだけで高齢者の何パーセントが認知症またはその疑いがあるかを把握するための質問というよりは、そういう状況がどう変わってきているか、相談窓口について知っているかどうか、身近に認知症の人がいるかいないかで知識等の違いがあるかどうかということ調べるための調査になっています。ご指摘の通り正確な把握のためにはお子さんなどに答えていただくほ

うが良いこともあるかもしれませんが、それはそれでご本人の意思とは異なる部分も出てくることがありますので、基本的にはご本人にお答えいただく、それで十分把握しきれないところについては、社会調査として仕方のないところとして結果を読んでいく、ということになるかと思います。

委員

13 ページの7の質問ですが、認知症基本計画にかかわってくるということで、新しい認知症観、正しい認知症観を作っていくということですが、1～3の質問は特にですが、1は今まで通り自律的に生活している、2はできるだけ自立した、3は自立ではないですが、これは何を知りたい項目なのかと思います。自助、公助といったことにもなりますが、自立となると、非常に難しいと思います。自分らしく、という表現でもいいのではと思います。

事務局

他市の取組を参考にして自助、共助、公助という視点も入っていますが、自分らしくという表現も確かに必要だと思われますし、自立という言葉の意味が幅広いですので、サービスを受けながらできる範囲で自分のことを自分でやるという視点もありますので、自立という言葉についてはもう一度検討したいと思います。ありがとうございます。

委員

1番は人の助けはもらえない、サポートはもらえないという選択肢かと思います。2は家族や地域の人に助けてもらいながら、今まで暮らしてきた家で生活したい、3は専門的なサービスを利用しながら、自分の家で暮らしたい、4つ目は家で暮らす気はない、施設に入りたいということを知りたいのかと思いました。今後、4は入所施設が足りませんので、地域共生社会ですので、2番3番が大事になってきますが、そのあたりで今後の施策に結びつくような数値が得られたらと思います。

事務局

ご意見ありがとうございます。認知症になってどのように暮らしたいかということで、在宅か施設かといった観点でもう一度検討したいと思います。

委員

高齢者なのでもう少し具体的に書くほうがわかりやすいと思いました。抽象的な文章だとあまり意味が分からずに丸をしてしまうかもしれません。介護認定を受けて、サービスを受けながら地域の中で暮らしていくとか、ヘルパーなどでとか、1のように工夫して補いながらというのは理想でしょうが、認知症になったら難しいところですので、具体的に買い物サービスを頼むとか、こういうサービスを受けながら自宅で生活していくとか、具体的な文章のほうが選びやすいと思います。認知症になって生活ひとりでするのは難しいと思いますので、それをどういう形でできるかという目安や案のような形で、そういう方法でやりたいということがわかる選択肢であれば、自分で工夫するのが無理だからサポートを受けて介護施設も行きながら暮らしたいとか、具体的にわかるアンケートのほうが良いと思います。

委員

私からも質問です。9ページのボランティアについてですが、その狙いをお聞きしたいのですが、社会福祉協議会で高齢者ファミリーサポート事業、家事ヘルパーサービスなどをされていますが、2番で有償ボランティアについて、社協でされている無償ボランティアの高齢者ファミリーサポート事業では依頼会員が多く協力会員が少ないということが懸案になっています。協力会員を増やしたい意図があるでしょうが、有償ボランティアについて、金額の設定がどうなのか、500～999円は県の最低賃金を下回っているのでは、それはどうかということや、5番はシルバー人材を念頭に置いたものかお聞きしたいです。

事務局

高齢者ファミリーサポートを想定して考えている質問です。金額を聞いていますが、他市のアンケートで無償より有償のほうが、利用率が上がったというアンケート結果がありますので、三木市においてもどうかということで質問を入れています。金額についてもファミリーサポートは1時間500円ですが、どのくらいの金額なら頼みやすいかという視点で入れています。5番は登録場所がどこにあるか皆さん知っているかどうかを聞きたいということで入れています。

委員

登録場所は社協になるでしょうか。

事務局

受け付けは社会福祉協議会になります。

委員

社協のほうで取り組んでおります高齢者ファミリーサポートという制度は500円ということですが、窓口で非常に職員は電話対応でやり取りしているのを聞きます。一番困るのはマッチングで、依頼会員はすごく多いですが、協力会員が少なく、マッチングがうまくできない、また夏の暑いときに草抜きをお願いしたいという要望が多いですが、協力会員さんが倒れてしまいますので、非常に難しい。また成年後見制度に結びつく生活支援の部署もありますが、そこも非常に電話対応に苦勞しています。ここに書いているように有償ですが安価なお金でサービスを提供するというのが社協に求められていることですので、有償と書くと民間のサービスのイメージですが、安価な金額でボランティアを受けられるということですね。そうすると下の金額もちろん最低賃金以下の設定でいいと思います。当事者として発言しました。

事務局

有償ボランティア登録制度、社協に委託しているファミリーサポートですが、このあたりの記載の工夫をしたいと思います。ありがとうございます。

委員

14 ページの将来のことですが、これまでの調査では人生の最期にどこでという質問でしたが、4 の人生会議が入っています。これの意図と終活と同じようなものだと思いますが、どういう意図でこれが入っているのかお尋ねしたいと思います。

事務局

在宅医療・介護連携支援センターのほうで、いま A C P の啓発を一昨年度から取り組んでいます。その普及啓発にあたり、調査項目で注釈を加えることで知っていただきたいということで今回初めて加えました。

委員

医療者の中では A C P、人生会議は認知されていますが、一般的には認知されていないと思います。

事務局

ご意見ありがとうございます。人生会議については、今月の市の広報でも載せていますが、11 月 30 日が国のほうで、いい看取りの日ということで、人生会議の日ということになっています。市では広報以外に、神戸電鉄三木駅にデジタルサイネージという待合室の電光掲示板で人生会議の周知をしているところです。高齢福祉課でも、問 11 にもありますが、今後の生活で心配なことは何ですか、ということのきっかけづくりとして、ライフプランを考えていただく取組をしており、今回 A C P の認知度の把握のために項目に加えています。

委員

今老人会で問題になっているのが、交通機関の問題、免許返納するけれどもバスがなかなかバス停まで遠いとか、思う時間に来ないなど、普段の生活の中で緑が丘は公民館が青山のほうにあって、緑が丘の住人から遠いため集まるのが大変といった実態があります。今はそれ以外に困っているのが、健康な時は歩いてバスに乗ってでも北播磨や山陽病院などに行けるというのがありますが、風邪で調子が悪いけれども救急車呼ぶほどではないといった時にタクシーになります。しかし緑が丘では、ほとんどタクシーは来てくれません。明日病院に行くので予約と思っても、受けてもらえない、電話しても取れない。そうすると急に車が必要になった時にどうしたらいいかということがあり、何か形としてあれば助かると思います。移動手段がないということもありますが、体調が悪い時に車がつかえない場合に、老人会独自で車をというのは難しいので、市でも協力してできたらと、アンケートから離れるかもしれませんが問題としてはあります。

委員

星印是三木市独自なので内容も変えることができる、国のものは変えられないということですが、今後こういうアンケートを国でたくさんされるとありますが、こんなことを聞かれても答えられないという問題があった時に、市や県はこういう質問ではなく違う質問の仕方をしてほしいといった問いかけはできるのでしょうか。8 ページで、地域で健康づくりに参加者として参加し

てみたいと思いますかという国の質問がありますが、参加したいけれどもできないという人もいるかもしれません。そういう選択肢がない、国は若い人が考えるからいいけれど、という話と、外出が減っていますか、控えていますかという問題があります。行きたいけれども車に乗らないといけない、控えていない、行きたいという高齢者は、こんな質問はもういいわ、やめとけ、と私などは答えなくていいと思います。国の質問だから内容を変えられないのは分かりますが、今後のアンケートでこういうことはどうですかといった問いを県や国に言うことはできるのでしょうか。

事務局

3年ごとに全国でとられているアンケートで、国からもこういう質問についてどうかということ聞かれるタイミングがあり、3年前も市民から、歯のことでインプラントはどうかといった質問もありました、そういう質問については県や国に言うタイミングがありますので、市民からの反応があったような件は国や県に申し出たいと思います。

委員

かかりつけ医ですが、どこの病院も予約制が多くて、その先生がかかりつけ医になると思っていますが、先生と合わないということもあり、変わった時はその先生がかかりつけになるので、この先生が、ということはないと思います。また歯のほうではインプラントが推奨されており、私もしているのですが、インプラントも使用されているのでそれも数に加えるとすると、これは根がありませんが、数に入れると20何本はあることになりますので、それも考えていただきたいです。バスの足がないという問題で、コミュニティバスが通っているところもありますので、自治会で相談していただいたら、少し動いていただけることもあるのではと考えたりしています。老人会に若い人が入らないことについては、学校の授業があったり、自分らしく生きるためにはこうしたいという勉強会なども行かれているのでなかなか入らないと思います。私も老人会には、体調がよくなかったら迷惑かけるのではと行けなくて、個人でやっているボランティアみたいな集いは、声がかかったら出かけるということで、入っているから参加しないといけないということが重荷になっているのではと感じました。

委員

アンケートはこれでお任せします。保険事業計画については非常にわかりやすく、市の施策を示してくれていますので、あとは自分がどうしていくかを、これを読みながら考えていました。足の問題で、私も人を運ぶボランティアもしていましたが、安全を考えなければならないということで、地域密着型の事業所が持ってくれたら、一回外出するのにその施設に頼めば1回500円、千円払うということで、習い事に行けるようなサービスがあるといいですが、事業所を立ち上げるというところから始めないといけなくて、それを事業所に求めるのは厳しいのだらうと思います。こまやかに神姫バスがルートを作ってもらうくらいしか思いつかないですが、自分の足で行けるというのも自己実現の一つだと思います。ファミサボも料金を取ってくれた方が頼みやすい、

無料のほうが気を使って逆にお金を使うことになるのではと思います、適当な金額、それが難しいと思いますが、社協の役割としてとても大事なことで、若いと言われてもできない事情もあるということで、洲本市に中川原というところがあり、そこは職員が今日は老人会、今日は手芸、買い物などの送迎を1回500円でやってくれる事業所があり、ボランティアでなく有償でした。けれどそれを作るのは難しい問題がありますよね。職員が少ないということもありますし。そこはデイサービスもやっていてお互いに教えあいをする、昼食代を払う、そういう夢のようなことをここでもできないかと聞いていました。この計画は私にはとても響くものがあり、また計画書を読ませていただきます。

部会長

それでは時間になりましたので、事務局に返したいと思います。

6 その他

事務局

池田部会長にはありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。令和8年度は3回の部会を予定しており、次回は8月ごろの予定です。開催のご案内をまたお送りしますのでよろしくお願いします。閉会にあたり植田副部会長よりご挨拶をお願いします。

7 閉会

副部会長

今日は、非常に熱心なご意見をたくさんいただきありがとうございました。行政にはきちんととらえていただき、より良いアンケートになっていけばと思います。資料作成の細かいチェックもぜひ事前をお願いしたいという指摘もありましたので、そのあたりはまたよろしくお願いします。次回はもう来年度になるわけですね。これをもとにいいアンケートができ、より良い実態調査ができてくると思います。それをもとに計画が立案されていくということですが、三木市は前から私は言っていますが、全国より兵庫県の平均より高齢化率が高いです。10年先を行っているのと前から言っているのですが、高齢者の夫婦の割合が非常に高かったのですが、だんだん減ってきています。なぜかと言えば高齢者夫婦のどちらかが亡くなったりして、一人で暮らしている高齢者が増えてきています。これは全国、兵庫県より低かったのですが、夫婦が多かったのと、ところが今や資料の11ページですが、令和2年の段階で、ほぼ全国、兵庫県と同じ数値にまで急激な上昇です。三木市ゆえんの動きだと思います。いま令和7年ですから、全国、兵庫県を超えてしまっている、一人暮らしの高齢者が多いということです。そういう中で、高齢者に関する福祉計画は非常に重要になってくると思います。行政も一生懸命頑張ってくれていますが、行政だけではどうにもならないということは日本全国で言われています。そのための地域共生社会であると。それは、地域社会、自治会、老人クラブ、いろんなボランティアが、あなたたちは何をするのか、何ができるのか、市にあれしてくれ、これしてくれの前に、自分たちが何をするか、それができないと地域包括ケアが成り立っていかないということがわかっています。人口が一気に増え

た江戸時代の急激な上昇から、急激な下降に転じています。その中で働く人が非常に減り、高齢者は増えているということです。行政だけではどうにもならないのは当たり前です。行政は行政で、社協は社協で、では地域では何ができるかが問われていますので、ぜひ自分事として、これからどうやっていけるかということは、たぶん全国・兵庫県が三木市を注目していると思っています。三木は10年先を行っています。三木市独自の動きをしていかないといけないということだと思いますので、ぜひみんなで頑張っていければと思います。本日はどうもありがとうございました。

事務局

植田副部長ありがとうございました。皆様いただいた意見を参考に、ニーズ調査については1月に発送する予定です。本日はこれで閉会となります。委員の皆様、どうもありがとうございました。